

島津製作所工場新築に伴う発掘調査 現地説明会資料

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

2017年8月5日

調査地の概要

今回の調査地は、平安京全体から見ると中央部西寄りにあたり、当時の住所表記では平安京右京三条三坊五町になります。平安京は、東西・南北に延びる大路や小路により区画された一辺約120mの方形の街区（町）を基本として設計されており、右京三条三坊五町は、北を姉小路、東を宇多小路、南を三条大路（三条通）、西を馬代小路に囲まれた区画となります。島津製作所三条工場では、姉小路が正門と西門を結ぶ東西道路、宇多小路が調査地東側建物横の南北道路、馬代小路が南門と北門を結ぶ南北道路にあたっており、構内の道路の多くが平安京の街路の位置と重なっています。

今回の調査地は、右京三条三坊五町北西部の約4分の1町の範囲（約4,500㎡）で、発掘調査は2017年5月1日から開始しました。現在は調査地南半部（約2,400㎡）の平安時代の遺跡を中心に調査を進めています。

周辺の調査成果

これまで調査地周辺では、平安時代前期から中期を中心とする遺構・遺物が多数見つかっています。平安京右京三条三坊五町では、調査地南側の1988年調査で平安時代前期の2棟の大型建物・溝など、東側の1985年調査で平安時代前期の建物・柵・井戸・姉小路南築地内溝などを検出しており、また、当時の高級品である灰釉陶器・緑釉陶器がまとまって出土しています。これらの成果から、調査地には1町規模（約120m四方の方形）の貴族の邸宅があったと考えています。

見つかった遺構・遺物（平面図を参照）

平安時代前期の建物跡が4棟見つかりました。中央部の建物1は建て替えが行われています。古い方（建物1古）は東西約15m、南北約11mの東西棟で、桁行5間×梁間2間の身舎（建物の中心部分）の南北両面に庇が付く建物です。北西部に桁行2間×梁間2間の建物4が並びます。また、新しい方（建物1新）は東西約21m、南北約9mの東西棟で、桁行7間×梁間2間の身舎の南面に庇がつく大型建物です。周囲には溝が巡ります。

北東部の建物2は、調査地東側の1985年調査で東端を検出した建物の延長部にあたります。今回の調査で西端を確認したことから、東西約15m、南北約7mの東西棟であることが確定しました。建物1より少し規模の小さい建物です。

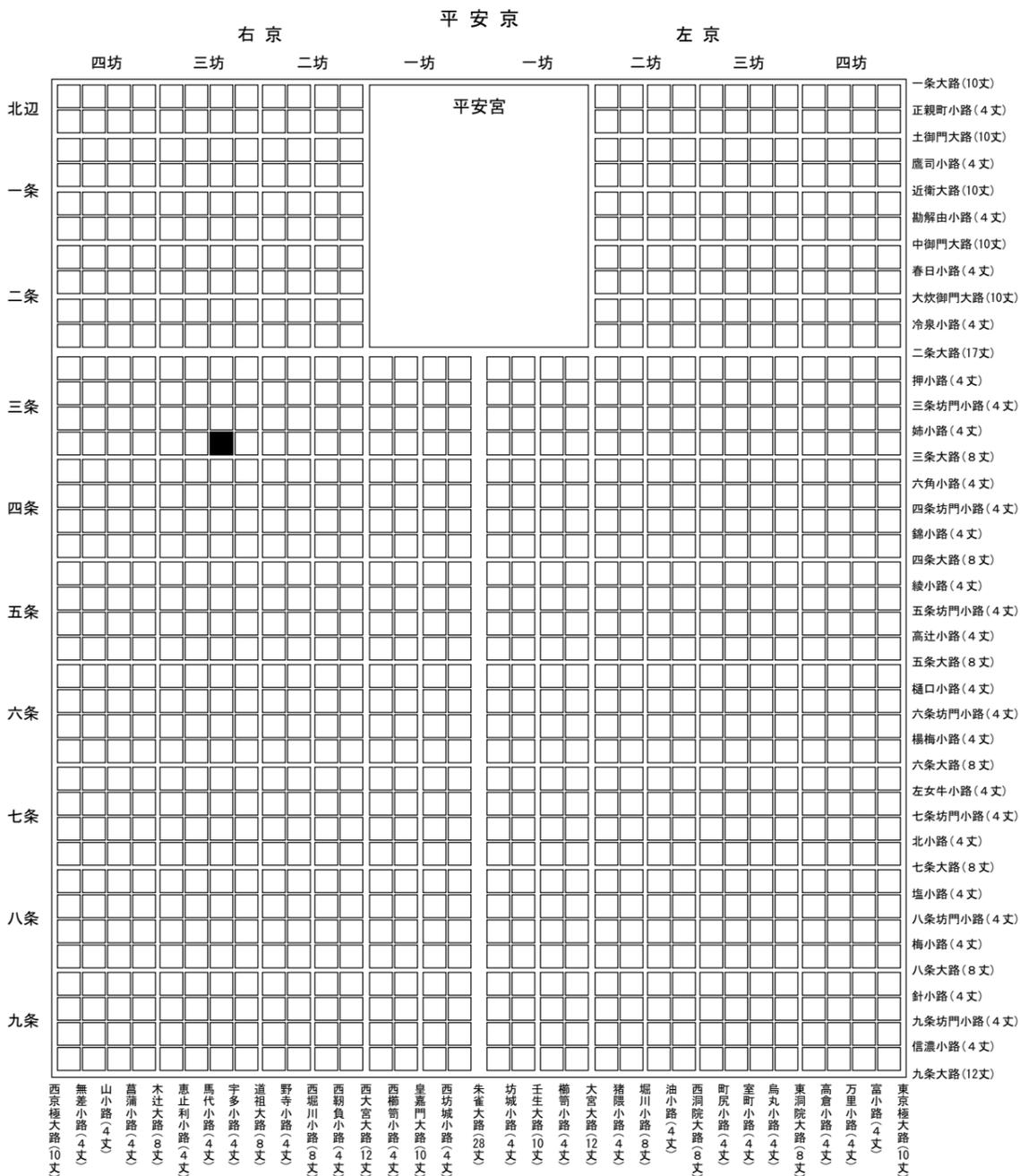
南東部の建物3は、南北6m以上、東西約6mの南北棟で、大部分が南側調査区外になります。柱穴にたくさんの石を詰めているのが特徴です。溝1は建物3の北西側を囲う形で屈曲していることから、邸宅内を区画する溝であったことがわかります。

調査区東側の溝2・溝3からは、多数の灰釉陶器・緑釉陶器・土師器・須恵器の食器類のほ

か、調理具として使用された須恵器の鉢、鍋として使用された土師器の甕などが出土しています。また、建物1の周囲からは少量ながら瓦片が出土していることから、屋根の一部に瓦を葺いていたと考えられます。

まとめ

今回の調査でも大型建物が見つかったことから、右京三条三坊五町の邸宅内には複数の大型建物が建ち並んでいた状況が明らかとなりました。新しい方の建物1新は、調査地南側の1988年調査の2棟の大型建物や2012年に東隣接地の三条三坊四町の発掘調査で見つかった大型建物と同等の規模を誇る、平安京内の中でも最大級の大型建物です。このような大型建物が軒を連ねる状況から、身分の高い貴族の邸宅であったことがうかがえます。また、高級品である灰釉陶器・緑釉陶器が多数出土していることも、これを裏付ける証拠となります。



調査地位置図

